

# 平山郁夫シルクロード美術館

<http://www.silkroad-museum.jp/about/information.html>

この美術館について、館長の平山美智子さんは次のようにおっしゃっています。

平山郁夫が日本文化の源流を求めて歩き出した道は、文明が行き交っただけでなく、仏教が東漸した道でもあり、現在シルクロードと呼ばれる道でした。

私たちはできるだけその道を通って、その道の文化に触れてきました。それによって、私たちの心の奥に眠っていた部分を呼びさまされるような思いに幾度となくかられたものです。今、私たちが日本の文化と誇れるもののほとんどは、多くの国々の恩恵を受けたものである事を忘れてはならないと思います。

平山個人が集めたものはわずかで、それらの文化のごく一部分に過ぎませんが、一人でも多くの方々に見ていただきたいと思います。

八ヶ岳周辺は日本文化の源である縄文文化の中心地の一つでもありました。その上、この周辺の道はかつて絹の往来する道であったと聞いて感銘を受けました。私どもがこの美術館をこの地に開いたことに共鳴して多くの方が来館して下さることを望んでおります。

館長 平山美知子

註：平山美術館はこの地が平山家の別荘であることからここに建てられた。

註：平山美知子さんは平山郁夫の奥さんである。

平山郁夫は玄奘三蔵を主題にした絵を描いたのは、1959年のことであった。それが「仏教伝来」という絵である。平山郁夫自身のが画境がなかなか開けずにいたこの時期、「仏教伝来」は一つの突破口となり、記念碑的な意味を持つ作品となったのである。

その後、薬師寺玄奘三蔵院伽藍の壁画の話が平山郁夫の前に持ち上がったのが1972年。玄奘との出会いとなった「仏教伝来」を描き始めてから18年目のことであった。薬師寺玄奘三蔵院伽藍の壁画を書きあげるために、平山郁夫はシルクロードからインドへの旅に出かける。おおむね玄奘と同じルートを旅するのである。そして、描いたスケッチを元に

数々のシルクロードの絵をかくのである。それらの絵は平山郁夫シルクロード美術館に所蔵され、適宜展示されるので、私たちはそれを見ることができる。

平山郁夫の旅には奥様・平山美智子さんが同行し、いろいろ平山郁夫の世話をしながら、それぞれの地域の伝統工芸品を収集されたようで、平山郁夫シルクロード美術館には、シルクロードゆかりの伝統工芸品も所蔵され、適宜展示されている。

平山郁夫シルクロード美術館には、玄奘三蔵に関連する美術品が見られるので、玄奘三蔵を偲ぶにはもってこいの場所だ。

なお、平山郁夫の描いた「仏教伝来」という絵は、現在、佐久間市近代美術館で所蔵されている。

この作品は、天竺より戻る玄奘三蔵がオアシスに着こうとする場面を描いたものである。未知の国々を旅し、肉体は疲れ切ってははずの玄奘、しかし心は豊かに、満ち足りた状態であることが、樹木や花々が繁茂する緑豊かな背景、空を舞う鳥や大地を蹴って走る犬の姿に象徴されている。

